

農村集落部門：一ツ木公民会（さつま町）

1 地区の概要

一ツ木集落は、旧宮之城町の虎居区の南端に位置しており、周囲を山に囲まれた中山間地域である。川内川支流の泊野川沿いに拓けた大区画ほ場を有する水田地帯であるが、1戸当たりの平均耕作面積は80a程度で、兼業農家が多数を占めている地域である。

町内でも、高齢化率の高い地域であるが、集落内の多数の農家が参加する集落営農法人により農地利用調整などの効率的な営農が実践されているほか、野菜等の収穫・調整に高齢者が雇用され、住民間で語らう交流の場が提供されるなど、集落と法人が一体となった取組が行われている。

2 むらづくりの主な内容

古くからの伝統行事が多く受け継がれ、集落住民のまとまりが強い地域である。

効率的な営農を目指して、公民会を中心に話し合い活動を重ね、各種施策を積極的に活用し、「集落の高齢者や兼業農家の誰もが参加し、楽しく農業が続けられる集落」の実現を目指し、集落内外の多様な人材を活用した共生・協働のむらづくりに取り組んでいる。

農村集落の再生

一ツ木地区は、集落ぐるみでの効率的な営農を目指して、長年継続している毎月定例会等を基本に、意見交換及び勉強会を頻繁に行い、集落での合意形成を重ねながら、集落の目標の実現に向けて取り組み、集落営農の法人化にもつながっている。年々、集落の少子高齢化が進んできていることから、集落住民が楽しく健康で暮らして行けるよう「集落の高齢者や兼業農家の誰もが参加し、楽しく農業が続けられる集落」の実現を目指して、集落と法人が一体となって取組を進めている。

多様な主体との連携

- ・ 集落内で行われる子ども達の農業体験では、さつまいもや落花生の収穫体験が行われ、収穫された農産物は、食育の一環として、地区のイベント等で提供されている。
- ・ 集落内で生産された農産物は、給食センターと連携して小中学校の給食に提供され、地産地消につながっている。
- ・ 集落行事の運営等に当たっては、Uターン者や若い人などに活躍の場を提供し、集落を担う人材育成に努めている。

新たなむらづくりの形成、むらづくりの維持・発展

<集落ぐるみの農業生産活動への取組>

- ・ 農業生産のコスト低減を図るため、集落での合意形成を進めながら農業機械の共同利用を推進し、大型機械の導入を計画的に進めている。

- ・ 集落及び集落営農法人による農地利用調整や「産地づくり交付金」を活用した畜産農家との連携などにより、農地の有効活用に努めている。
- ・ 多面的機能支払交付金を活用し、非農家を含めた集落全体による農地の保全活動や農業用施設の維持管理に取り組んでいる。

<地域に還元する農業の実現>

- ・ 集落ぐるみで営農に取り組むことにより、大幅なコスト低減に加え、個々の営農では実現できなかった所得を得ることが可能となった。

<元気な高齢者の生きがいづくり>

- ・ 非農家も含む高齢者が自宅にこもらず外出し、住民間で語らう交流の場を提供するため、サツマイモやジャンボインゲン等の収穫・調整などに、高齢者を雇用している。

3 今後のむらづくりの方向性

今後の集落の取り組みとして、集落外の若手を集落営農法人に雇用することによる定住人口の増加や、定年後の兼業農家の女性達を中心となり、サトイモ等を活用した6次産業化等に取り組むなどの女性の活躍の場を作っていきたい。

農業経験のない若手が集落や集落営農法人の活動に参加できるような場づくりに努め、「集落の誰もが参加し、楽しく農業が続けられる集落」の実現を目指して、集落と集落営農法人が一体となったむらづくりに取り組んでいきたい。

<活動状況写真>



集落ぐるみでの話し合い活動



収穫作業（高齢者の交流の場）



市街地の子ども達の農業体験



集落ぐるみの秋の収穫祭